



学校便り 11月号

かけはし

薩摩川内市立里小学校 薩摩川内市里町里 1601 TEL 09969-3-2008
発行 令和7年11月11日 責任者 校長 永野 俊也

学校 HP



学校ブログ NEW



里周辺海水温
1℃(測定できず)



深まる秋 と 伝統文化

歴史と文化から学ぶこと

ないしまい なおらい



校長 永野 俊也

八幡神社の秋の大祭が終わりました。内侍舞に直会と伝統文化の歴史を重ね、一気に里の秋が深まっていくのを感じました。宮相撲でも子供たちの取組が大いに歓声呼び、賑わいをもたらしてくれたと思いました。

一方11月に入ると、すぐに授業参観週間となり多くの参観者をお迎えしました。今年、今まで学年ごと各月に割り振り行われていたなかよし音楽を、この週間にまとめ、音楽集会として実施しました。また、図書委員会を中心とする読書集会をはじめ、5,6年生は、物づくり教室で、塩田浩一さん等を講師にお迎えし表装等の職人技を学ぶ等、芸術の秋、読書の秋にふさわしい多くの行事を経験しながら、子供たちは豊かな感性を育ててくれています。



舞嬢の結さん



宮相撲

そして今月末、甑島の5,6年生は社会科見学と陸上記録会に出かけます。そこで、今年初めて旧東郷町の東郷文弥節人形浄瑠璃(とうごうぶんやぶしにんぎょうじょうり)を学習コースに組み入れて、学んでくるそうです。“これはすごい!”と驚きました。元々中学校の音楽教師である私は、授業で歌舞伎や文楽(人形浄瑠璃)を取り上げていました。一見古めかしく、現代っ子にとって意味不明?の語りと演技、舞踊、音楽ですが、授業で解説をし、先に見ていた西洋のオペラと比較対照しながら、課題解決学習でテーマを決め取り組ませると、思いのほか伝統的な総合

芸術の魅力に引き込まれていくのです。そんな経験をしてきました。

少しだけ旧東郷町の人形浄瑠璃を解説すると、その歴史は古く、江戸時代前期(約300年前)まで遡ることができます。一般的に人形浄瑠璃は、太夫(語り)、三味線(演奏)、人形遣い(人形操作)の三業が一体となって物語を表現する日本の代表的な伝統芸能です。その発展は竹本義太夫が語り手として義太夫節という語り口を創始し、近松門左衛門らの名作を取り上げることで広く民衆に楽しまれるようになりました。東郷町の人形浄瑠璃は、江戸初期に伝わり途中途切れた時期もありましたが、地元の方々が大切に守り伝えてきました。それが近年の調査でこの語り口は文弥節という義太夫節以前の古浄瑠璃に分類されることがわかりました。古浄瑠璃が現在まで伝わっている場所は少なく、日本全体で残っているのは4地域だけです。このことから薩摩川内市(旧東郷町)の人形浄瑠璃は、国



東郷の浄瑠璃

の重要無形文化財に指定されています。

様々な娯楽がある現代と異なり、年に数回上演される人形劇。哀愁を帯びた節回しに、素朴な味わいの物語を楽しみにしていた人々の姿が目に見えます。現在地元の小中学生がその継承に向けて動いています。甑島の祭りや伝統芸能もとても誇れる文化です。子供たちには、これから先これらの文化を大切に守り育て、未来へバトンをつないでいってほしいと思いました。

1~4年生の社会科見学

10月17日(金)、1~4年生の社会科見学を実施しました。

今年度は、鹿島サービスセンターにある甑ミュージアムの見学とAコープ、POP1での買い物体験の学習でした。今年4月にオープンした甑ミュージアムでは、恐竜の骨格標本など様々な展示を見ることができ子供たちも興奮気味でした。また、研究中の展示があったり、2~3年生は昨年お手伝いした展示があったりして、楽しい見学となりました。

また、AコープとPOP1での買い物体験では、普段入ることのできないバックヤードに入ったり、店員の方の説明を聞いたりして販売の仕事について理解を深めることができました。その後は御家庭で話し合ったそれぞれの商品を購入していました。



稲刈り



10月28日に、3・4年生がふるさとコミュニケーション科で育てている米の収穫がありました。小川豊博さんの御指導のもと、鎌をつかい上手に収穫することができました。

12月行事



- 1日(月) 人権旬間(~12日)
- 2日(火) ALT来校
- 3日(水) 委員会活動
- 4日(木) 持久走大会
学級PTA 第2回学校保健委員会
- 5日(金) ESC来校
- 10日(水) ALT来校
- 11日(木) かのこゆり号来校
- 12日(金) スクールカウンセラー来校
- 13日(土) 土曜授業・PTA空き瓶回収
- 16日(火) ESC来校
- 19日(金) ALT来校
- 22日(月) ALT来校
- 24日(水) 終業式 大掃除
- 26日(金) 仕事納め

【お知らせ】 ブログの再開 について

運営会社のサービス停止に伴い更新を中止していた、里小学校と里幼稚園のブログですが、運営会社変更の作業をすすめ、更新を再開いたしました。新しいブログにつきましては本誌の左上二次元コードまたは、里小学校ホームページのリンクから閲覧してください。よろしくお願いいたします。

【お礼】 学校参観週間

学校参観週間での多数の来校ありがとうございました。授業はもちろんですが、読書集会など多くの方に見ていただき、子供たちも励みになったと思います。

今月の付録 里ことば の ひみつ

～ 里村の暮らしをひもとく ～ (その3)

今月も、正治 さんの本の中にある 里ことば の会話から、当時の生活を垣間見てみましょう。(今回は、長文を含みます。)

^{かねつきば}イチノダンに鐘突場んあって、^{ひーら}朝晩は六つ 昼^{こづき}は十二、鐘突き^{まわ}きゃあ 役場ん小使^{ふとい}ゃあの仕事^{まわ}やったとよ。高さが1メートル^{まわ}ばかり、^{ふとい}周りは一人で
かかえきらんしこの鐘^{まわ}やったあ。戦争中 鐘^{まわ}ゃあ 供出されて、サイレンに 変わった^{まわ}ちやいたあ。

一の段に鐘突き場があって、朝晩は六つ、昼は十二、鐘突きは役場の小使い(用務員)の、仕事だったんだよ。高さが1メートルほど、周りは一人で抱えきれないほどだったよ。戦争中に鐘は供出されて、今はサイレンに変わったんだよ。

あれっ? それじゃ今掛かっている鐘は??? ちゃんと本に注釈が書いてありました。今一の段の展望所に下がっている鐘は、大正末期の火事で連打して壊れたものを補修したものだそうです。もともと壊れていたものを修理したので「叩かないでください!」と看板が立っているんですね。壊れた鐘はどこかに置かれて忘れられ供出を免れたのでしょうか? 不思議な運命を感じます。



*裏から見たとヒビの様子
がわかります。

【通称 ドン と呼ばれる鐘】
大正九年十月三十日 教育勅語三十年記念 里村青年団
設立 と鐘に銘文がありました。

次の二つの話は、終戦前後(昭和20年5/30~8/21)の約80日間行われた学童疎開(小2~6)の貴重な証言です。

**そこ^{おなご}じゃあ だいも^{おなご}きゃーも、ふだいか^{おなご}思いば したさい^{おなご}どあ。んーど^{おなご}まあ上級生^{おなご}やったでえ、農家^{おなご}さみ^{おなご}ゃあ かせーにい^{おなご}きゃあ、腹い^{おなご}っぱ^{おなご}ゃー
かせて^{おなご}もろ^{おなご}おた^{おなご}ばって、下級生^{おなご}は、食う^{おなご}もん^{おなご}ち^{おなご}ゅわあ、こま^{おなご}あん^{おなご}かジャガイモ^{おなご}ん、二つ^{おなご}三つ^{おなご}いた^{おなご}味噌^{おなご}ん^{おなご}すい^{おなご}や^{おなご}った^{おなご}さい^{おなご}どあ。**

(^{おなご}菌上女子組の話)

そこでは誰も彼も、ひもじい思いをしたんだよ。自分たちは上級生だったから、農家に加勢に行くと、腹いっぱい食わせてもらったけど、下級生は、食うものと言えば、小さいジャガイモの、二つ三つ入っている味噌汁だったんだよ。

**ワシ^{おなご}ど^{おなご}まあ 二年生^{おなご}から六年生^{おなご}ずい、五十人^{おなご}ばかり^{おなご}いやい^{おなご}申いた^{おなご}かも。襦^{おなご}ば^{おなご}取り^{おなご}いは^{おなご}しいて、布^{おなご}団^{おなご}ぼ^{おなご}ゴツ^{おなご}ゴツ^{おなご}に^{おなご}ひ^{おなご}いて、寝^{おなご}申^{おなご}すと^{おなご}よ。
そ^{おなご}いで 夜^{おなご}な^{おなご}きゃあ^{おなご}ない^{おなご}申^{おなご}す^{おなご}ち^{おなご}ゅ^{おなご}う^{おなご}と、下級生^{おなご}が あ^{おなご}ち^{おなご}でも^{おなご}こ^{おなご}ち^{おなご}でも、シク^{おなご}シク^{おなご}や^{おなご}い^{おなご}申^{おなご}す。そ^{おなご}ん^{おなご}う^{おなご}ち^{おなご}い「お^{おなご}っ^{おなご}か^{おなご}ー^{おなご}ん」「お^{おなご}っ^{おなご}か^{おなご}ー^{おなご}ん」^{おなご}て
泣^{おなご}き^{おなご}じゃあ^{おなご}て、上級生^{おなご}は、そ^{おなご}び^{おなご}ゃあ^{おなご}いた^{おなご}て、な^{おなご}だ^{おなご}め^{おなご}たい^{おなご}す^{おなご}か^{おなご}しい^{おなご} や^{おなご}い^{おなご}申^{おなご}いた^{おなご}あ。**

(^{おなご}村西女子組の話)

私たちは、二年生から六年生まで、五十人ばかりだったかも(しれません)。フスマを取り外して、布団をゴツゴツに敷いて、寝るのです。それで夜中になりますと、下級生が、あっちでもこっちでもシクシクし始めます。そのうち「お母さん」「お母さん」と泣き出して、上級生はそばに行って、なだめたりすかしたりでした。



和田静子さんが編纂した「甌島里国民学校 学童疎開の思い出」は、大人の証言が多く子供目線の証言が少ないため、これは貴重な記録だと思います。疎開先の宮之城の方々も精一杯の受け入れをしてくれましたが、終戦前後の食糧難の頃です。当時の様子^{おなご}がしみじみと伝わります。子供たちの宿泊先は、公民館^{おなご}だったそうです。

次は、当時ならではの学校の光景です。

**フト^{おなご}取り^{おなご}の口^{おなご}開^{おなご}けん^{おなご}朝^{おなご}あ、教室^{おなご}い^{おなご}お^{おなご}っても^{おなご}気^{おなご}が^{おなご}気^{おなご}で^{おなご}ない^{おなご}申^{おなご}お^{おなご}さん。教員^{おなご}室^{おなご}で^{おなご}先生^{おなご}たち^{おなご}が^{おなご}話^{おなご}し^{おなご}合^{おなご}お^{おなご}て^{おなご}お^{おなご}い^{おなご}や^{おなご}い^{おなご}申^{おなご}す。そ^{おなご}ん^{おなご}う^{おなご}ち^{おなご}い、決^{おなご}ま^{おなご}った^{おなご}ふ^{おなご}う^{おなご}で^{おなご}教室^{おなご}い^{おなご}来^{おなご}や^{おなご}い^{おなご}申^{おなご}す。
さ^{おなご}ー、「今日^{おなご}は^{おなご}休^{おなご}み」^{おなご}ち^{おなご}ゅ^{おなご}や^{おなご}い^{おなご}申^{おなご}すと、も^{おなご}う^{おなご}教室^{おなご}か^{おなご}ら^{おなご}走^{おなご}い^{おなご}じ^{おなご}ゃ^{おなご}あ^{おなご}て、「フト^{おなご}イ^{おなご}や^{おなご}い^{おなご}ど^{おなご}あ」^{おなご}て お^{おなご}ら^{おなご}び^{おなご}お^{おなご}ら^{おなご}び、ワ^{おなご}ガ^{おなご}い^{おなご}に^{おなご}向^{おなご}き^{おなご}ゃあ^{おなご}申^{おなご}す。**

^{てんぐさ}天草採りの口開けの朝は、教室にいても気が気でなりません。教員室で先生たちが、話し合っておられます。そのうちに、定まったように(漁協の連絡を受けて)教室に來られます。さあ、「今日は休み」と申されますと、もう教室から走り出して「フトイヤイドー」「フトイヤイドー」と大声で叫びながら、わが家に向かいます。



天草(トコロテンや寒天の材料となる海藻類)の解禁日を楽しみにして、学校もその日はお休みになって、村総出で天草採りをしていた様子が伝わります。小学生も男の子は、桶をもって潜り、女の子は潜りませんが、首だけ出して届くところ(磯餅焼きで言う だんだんぎーのところ)で採っていたそうです。磯餅焼きの際、海の竜宮様に、豊漁豊作と海の安全を願うことは、当時の生活から、とても自然なことなのだと思います。さて次は、懐かしい旧校舎の話です。

ン^{おなご}ど^{おなご}が^{おなご}ん ジー^{おなご}サン^{おなご}ど^{おなご}が と^{おなご}ー^{おなご}き^{おなご}ん、教室^{おなご}ゃあ 床^{おなご}板^{おなご}も^{おなご}隙^{おなご}間^{おなご}だ^{おなご}ら^{おなご}け^{おなご}で ハ^{おなご}ダ^{おなご}ー^{おなご}シ^{おなご}や^{おなご}い^{おなご}も^{おなご}ん^{おなご}で、冬^{おなご}あ^{おなご}冷^{おなご}や^{おなご}こ^{おなご}お^{おなご}して 泣^{おなご}こ^{おなご}お^{おなご}ご^{おなご}た^{おなご}った^{おなご}て。

うちのじいさんたちの時の教室は、床板も隙間だらけで、裸足なものだから、冬は寒くって、泣きたいほどだったとか。



*明治30年設立
旧校舎

明治30年~昭和40年までの旧校舎は、68年間使われました。寒さが伝わりますね。昭和40年に建てられた現在の校舎は、2回の大規模改修を経て現在61年目です。この後、100年以上使われ続けるのではないのでしょうか。このシリーズ次回で最終予定です。(つづく)